

巻頭言

環境と情報の融合による豊かな人材育成をめざして

増井 忠幸



環境情報学部は、2006年度で開設10周年を迎えました。この間学部を取り巻く情報環境・社会環境は大きく変化してきています。IT技術はより高度になり、演算スピード、記憶容量、記憶媒体の爆発的な向上はもちろん、情報ネットワーク化が急速に進んだことによって、社会の仕組みに大きな変化をもたらしました。情報関係に携わる人材も、習得しなければならない知識がより高度かつ膨大なものになってきています。私も永年、情報処理技術者試験委員等を通じて、情報技術者の育成にもかかわってきましたが、最近特に、情報システム関係人材に対する業務知識や仕事の手順に関する教育の必要性を感じています。コンピュータやネットワーク応用の知識は備えているのですが、周辺知識や常識であるべき「業務や仕事がどのような手順で処理されていくのか」、「処理のアルゴリズムがどのようなになっているのか」を理解していない人材が多くなっているということです。そこで、「対象としているシステムの構造を把握する能力」と、それを「記述・表現する能力」を強力に育成していくこと、具体的には、問題や対象システムについて、関連知識を身につけること、仕組みを的確に把握し記述すること、そしてその対策や方法をアルゴリズムとしてきちんと記述する能力を養成することが最も重要だと思われまふ。さらに、IT技術を身につけた者に「倫理観」や「道徳観」が備わっていなければ大変な事態を引き起こすことは自明であり、残念ながら、その兆しも見え始めていますので、この側面も強化していかなければなりません。政府もこの点に力を入れ始めています。

これらのことは、情報システム以外の社会や組織の仕組みにかかわる人、すなわちすべての人に共通の課題といっても過言ではないと思います。

環境情報学部の教育理念に、「国内外の持続可能な地域社会の構築に資する、優れた人材を育成すること」とあり、さらに「環境（自然・人工環境、および社会・文化・政治・経済環境を含む）の質を維持・改善するために、個人や地域社会全体の知識、関心、態度、価値、技能、参加行動を高めるための学際的なアプローチ」のために、環境諸分野についての教育と情報処理に関する充実した教育を行い、「健全な倫理観」と「問題認識、調査・解析、計画立案・評価、および情報伝達能力」をもった「総合的な判断力と問題解決能力」を有した人材を育成するとあります。まさにこの学部は、上記の課題に応えようとしているのです。

現在、本学部においては、通常の教育・研究に加えて、「サイバーキャンパス整備事業」と「特色ある大学教育支援プログラム」の二つの大きな事業が推進されています。これらは、相互に補完し合い、設備（ハード）と教育内容（ソフト）の充実に相乗効果を生み、ひいては研究教育分野における環境と情報の融合に結びつき、幅広い見識を有する人材育成に貢献するものと期待されます。これらを推進・支援する情報メディアセンターの役割は大きいものがあります。このメディアセンタージャーナル第7号にも、「国際海底ケーブルネットワーク敷設」「パソコンの再利用」などといったハード面からのアプローチを始めとして、「環境モニタリングシステムの省電力化」や「柔軟な構築可能なモニタリングシステム」「環境英語のe-learning」「情報エコロジーの授業」といった“環境と情報の融合”の視点に立つもの、さらに、「インターネットによる遠隔授業」「小学校における学習環境デザイン」「教材開発のためのフリーソフトウェア活用」「教育へのBlogの活用」といったIT技術を活用した学習方法の提案など、幅広く“ハードとソフトの両面からのアプローチ”が展開されています。

これからもこの情報メディアセンタージャーナルが、単なる情報メディアの技術論や方法論に留まることなく、最新の設備やネットワークを駆使して、教育方法や教育内容について、学内外の専門家によって多角的に論じられる場になり、論理的思考力と豊かな倫理観を有する人材育成に寄与すると共に、研究の成果を広く社会に発信し、持続可能な社会の構築に貢献することを期待しています。